
歩く

大智 真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歩く

【Zコード】

Z5696A

【作者名】

大智 真

【あらすじ】

人生を突っ走っていた男が、ある日壁にぶつかり走るのをやめて人生を見つめなおしてみる。その答えは . . .

ゆっくり、ゆっくりと歩いてみた。

こんなにゆっくりと歩いたのはいつぶりだろ？

．．．もしかしたら、初めてかも知れない。

それくらい、私は突っ走ってきた。

脇目も振らずに走ってきた。

高校卒業、すぐに就職をして、二十歳で結婚。

二十一歳で一児のパパになり、責任と重圧を背負いながらここまで駆け抜けて、たどり着いた先が立ちはだかる大きな壁、リストラだった。

「なぜだ」

私は混乱した。

私はまだ28歳で、自分で言つのも何だが将来も有望だと思つていた。

それが、このざまだ．．．

妻には、全て打ち明けた。

子供のためにも、協力していこうと言つてくれたが、その目は脱力感で満ちていた。

何とかすぐに次の働き口を探さないと。

私はすぐに市内の職安へと走った。

手当たり次第、資料を読み漁つたが、適当な職はみつからなかつた。

帰り道、私はそれまでの疲れが一気に噴出したように歩いた。

たぶん、人目には敗者の風体に映つているだろう。

しばらく歩いていると、何回か通つたことがあるはずのその道が、別な風景に映つていてに気がついた。

立ち止まり、眺めているうちに、ふと悟つた。

脱力しきつた目をしていたのは、妻ではなく私だ。

妻の目から、私が私を見ていたのだ。

そして私は、走るのをやめることにした。

人生を、歩いて進んでいいのも大切ななんじやないかと思った。

もう一度、今後のことと妻と相談してみよう。

一人で背負い込まず、いろいろしゃべつてみよう。

仕事を探すのは、それからでもいいじゃないか。

(後書き)

初めて、しかも30分ほどで書き上げた作品です。とにかく何か投稿してみたくて、即興で書きました。今度はもうちょっとましな作品を仕上げます。徐々にレベルアップしていきます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5696a/>

歩く

2010年12月14日18時44分発行